

「横浜市文化芸術・創造都市施策の基本的な考え方」 中間取りまとめ（素案）について

1 策定の趣旨

本市では文化観光局を中心に、本市の成長戦略でもある「観光・創造都市戦略」を推進するため、「文化芸術」、「創造都市・まちづくり」「観光MICE」それぞれの取組を深化させ、分野間の連携に努めてきました。

「文化芸術振興」と「創造都市施策」を一体的に促進し、さらなる相乗効果を発揮するため、文化芸術・創造都市に関する今後の施策展開の基礎となる基本的な考え方をまとめます。

【参考】これまでの方針等

- ・「横浜市の文化芸術政策に関する中期の方針」（平成 18 年 3 月）[5 か年を想定]
- ・提言書「クリエイティブシティ・ヨコハマの新たな展開に向けて」（平成 22 年 1 月）

2 中間取りまとめ（素案）について

次ページ以降参照

3 これまでの経過

- 6 月 8 日 第 1 回庁内プロジェクト会議開催（以後ワーキングを含めて 9 回開催）
- 6 月 15 日 第 2 回市会定例会 市民・文化観光・消防委員会報告
・・・「基本的な考え方」の策定について
- 7 月 25 日 創造都市政策推進ボード（外部委員）意見聴取
- 9 月 10 日 区長会

4 今後の予定

- 9 月 19 日 局長会
- 10 月～11 月 市民意見募集、専門家意見聴取
- 12 月 第 4 回市会定例会 市民・文化観光・消防委員会
・・・「基本的な考え方」最終取りまとめ（案）について
- 12 月末 「横浜市文化芸術・創造都市施策の基本的な考え方」策定

横浜市文化芸術・創造都市施策の基本的な考え方

中間取りまとめ素案

【策定の趣旨】本市では文化観光局を中心に、本市の成長戦略でもある「観光・創造都市戦略」を推進するため、「文化芸術」、「創造都市・まちづくり」「観光MICE」それぞれの取組を深化させ、分野間の連携に努めてきました。

「文化芸術振興」と「創造都市施策」を一体的に促進し、さらなる相乗効果を発揮するため、文化芸術・創造都市に関する今後の施策展開の基礎となる基本的な考え方をまとめます。

I 本市を取り巻く状況

- ◆ 急速なグローバル化・高度情報化の進展
- ◆ 少子・高齢化の進展と人口減少社会の到来、コミュニティの希薄化
- ◆ 欧州の債務危機、長引くデフレ傾向等 厳しい経済状況
- ◆ 都市の時代、アジア各国の台頭、都市間競争の激化
- ◆ 東日本大震災の発災による新たな社会課題と「心の絆」の重要性

II 横浜市が文化芸術・創造都市を推進する意義

1 本市が文化芸術・創造都市施策を推進する意義

- 文化芸術は市民がゆとりと潤いを実感できる心豊かな市民生活を実現するうえで不可欠。また、優れた文化芸術は人々をひきつける魅力を都市に与える。
- さらに、文化芸術は、教育、福祉、まちづくり、観光 MICE、産業等、幅広い分野との関連性が意識されてきており、それらへの波及効果を視野に入れた展開が一層求められている。
- とりわけ、欧州を起源とする創造都市の取組は、世界的な広がりを見せており、我が国においても取組が増えつつある。



横浜が市民にとって誇れるまち、国内・海外からも「選ばれる都市」として持続的に発展し、都市の活性化を図っていくために、市民、NPO、アーティスト・クリエイター、団体、企業と協働しながら、文化芸術・創造都市施策を積極的に展開していく。

2 展開の視点

あらゆる施策を推進していく基本として市民協働を据え、次の3つの視点を重視。

(1) 横浜らしさ

- ・ 横浜は開港以来、世界の窓口として様々な交流の拠点となり、新しい文化を育み国内外に発信してきた。
- ・ 横浜には、開港以来先人達が積み上げてきた歴史と、港を囲む景観、旧東海道や郊外部の自然、古くからの伝統文化など市全域に優れた資源がある。
- ・ 横浜の持つ歴史と資源を継承・発展させるとともに、オリジナリティにあふれる新たな価値を発信することにより、国内外から評価される横浜の個性やブランド力を創造する。

(2) コミュニティの活性化

- ・ 子どもたちから高齢者まで幅広い市民が豊かな文化芸術を享受し、生き生きと活動することは地域社会の活性化につながる。
- ・ 地域における文化芸術事業の展開は、地域資源の再発見による魅力の形成や地域課題への取り組みを促し、コミュニティの活性化につながる。
- ・ 文化芸術と地域社会をつなぐことで、コミュニティの活性化を図る。

(3) 賑わいづくり、経済の活性化

- ・ 優れた文化芸術は人々に感動を与え、多くの人を引き付ける魅力を都市に与える。特色ある横浜ならではの文化芸術を発信し、観光 MICE 振興にも連なる横浜の賑わいづくりにつなげる。
- ・ 創造的な人材が集まる都市には活力が生まれ、新たな産業の創出につながる。横浜経済の活性化につながるような文化芸術創造都市づくりを進める。
- ・ 効率的・効果的なプロモーションを展開し、賑わいづくりと経済活性化につなげる。

Ⅲ 基本方針

基本方針1 市民の文化芸術活動を支援します。

(1) 市民の文化芸術活動の拠点機能の充実

市民が主体的に行う文化芸術活動を推進するための環境整備を推進。

(2) コミュニティの活性化に向けた文化芸術活動の推進

コミュニティの活性化に向けて、文化芸術の創造性を活かして、教育、福祉、子育て、環境など様々な地域課題の解決に取り組む活動を支援。

(3) 市民・NPO・アーティストが行う文化芸術活動への支援

市民が行う文化芸術活動を継続的・専門的に支援するための中間支援機能を充実。

基本方針2 子どもたちをはじめとする次世代育成を進めます。

(1) 子どもたちの文化芸術体験活動の充実

子どもたちが様々な文化芸術を体験できる機会や、優れた芸術を鑑賞する機会、プロのアーティストと触れ合う機会を充実。

(2) 新進アーティストの発掘・育成・支援

才能豊かな若手の新進アーティストを支援し、横浜から世界に羽ばたくチャンスあふれる街を目指す。

(3) 文化芸術を支える人材の育成・支援

大学やアートNPO等と連携し、文化芸術活動を支える創造的な人材の育成・支援を推進。

基本方針3 創造都市横浜の取組をさらに加速し、アーティスト・クリエイターの創造的活動を支援します。

(1) アーティスト・クリエイターの創造的活動の支援

横浜の地域資源を活用しながら、アーティスト・クリエイターの創造的活動を支援し、市内への集積を一層推進。

(2) 創造的産業の集積の推進

アーティスト・クリエイター同士や企業・地域とのネットワークづくりによる、新たな価値やビジネス機会の創出と創造性を活かした横浜らしいまちづくりの推進。

(3) アーティスト・クリエイターへの支援機能の充実

ヨコハマ創造都市センターを中心に、アーティスト・クリエイターへの支援機能を充実するとともに、効果的に情報発信。

基本方針4 賑わいづくり・観光 MICE 振興につながる、横浜らしい先進的な文化芸術を国内外に発信します。

(1) 芸術フェスティバルの開催による国内外への魅力発信

都市の魅力の国内外への発信や、賑わい創出と経済活性化を図るため、横浜の街を舞台としたオリジナリティあふれる芸術フェスティバルを毎年開催。

(2) 文化芸術の国際交流の推進

専門文化施設や創造界隈拠点において、積極的に文化芸術の国際交流を推進。

(3) 専門文化施設での質の高い展覧会・公演の開催

専門文化施設のポテンシャルを高め、横浜らしい特色のある新しい文化を創造し、国内外から注目されるような展覧会・公演を開催。

<参考1>国の基本方針における「文化芸術振興の意義」

- ① 豊かな人間性を涵養し、創造力と感性を育むなど、人間が人間らしく生きるための糧となる
- ② 他者と共感し合う心を通じて意思疎通を密なものとし、人間相互の理解を促進するなど、共に生きる社会の基盤を形成する
- ③ 新たな需要や高い付加価値を生み出し、質の高い経済活動を実現する
- ④ 科学技術の発展と情報化の進展が目覚ましい現代社会において、人間尊重の価値観に基づく人類の真の発展に貢献する
- ⑤ 文化の多様性を維持し、世界平和の礎となる

- ・人々が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していくうえで不可欠
- ・個人や様々なコミュニティの構成員としての誇りやアイデンティティを形成する社会的財産
 - ・創造的な経済活動の源泉、人々をひきつける魅力や社会への影響力を持つ「ソフトパワー」
 - ・持続的な経済発展や国際協力の円滑化の基盤、都市の活力を高めるもの
 - ・文化芸術は、教育、福祉、まちづくり、観光、産業等、幅広い分野との関連性が意識されてきたが、それら周辺領域への波及効果を視野に入れた展開が求められる
 - ・とりわけ、欧州を起源とする創造都市の取組は、世界的な広がりを見せており、我が国においても取組が増えつつある
 - ・我が国としても新たな成長分野として雇用の増大や地域の活性化を図る観点、国際的には特に東アジアにおける文化的存在感を高める観点も踏まえ、自国の強みを活かした施策を戦略的に展開する必要がある

(出典：「文化芸術の振興に関する基本的な方針」(第3次基本方針)平成23年2月8日閣議決定から抜粋要約)

<参考2>「横浜市基本構想(長期ビジョン)」横浜の都市像(2025年頃までを展望)

『市民力と創造力により新しい「横浜らしさ」を生み出す都市』

▼都市像を支える5つの柱

- ① **世界の知が集まる 交流拠点都市**
世界から集まる多様な文化や技術を持つ人々が交流し、新しい文化芸術や先進的技術を生み出し、特色ある都市の創造性を発信することで世界の知識と知恵の拠点を目指す。
- ② **新たな活躍の場を開拓する 活力創造都市**
高度な技術や人の集積による都市の創造力と、新しい就業の場の創出により、人も企業も躍動する活力あふれる都市を目指す。
- ③ **多様な働き方や暮らしができる 生活快適都市**
自然環境や都市景観など地域の特性に応じたまちづくりを市民自らが愛着を持って行うことにより、豊かな生活環境のある快適で暮らしやすい都市を目指す。
- ④ **市民の知恵がつくる 環境行動都市**
世界から環境に関する情報や技術、人が集まり、その交流の中から新たな環境技術や取組を生み出すとともに、環境と経済の好循環を実現する都市の姿を発信することで、環境の港を目指す。
- ⑤ **いつまでも安心して暮らせる 安全安心都市**
一人ひとりの知恵と行動力を結集しつつ、セーフティネットの行き届いた社会の仕組みをつくりあげていくことにより、いつまでも心豊かに暮らせる都市を目指す。

(出典：「横浜市基本構想」(長期ビジョン)(平成18年6月23日策定)から抜粋)